

ヒメウズラシギの渡来

石江 馨・石江 進

The first record of Baird's Sandpiper
from Kanagawa Prefecture.

Kaoru ISHIE and Susumu ISHIE

1980年9月14・15日に、平塚市の相模川河口に於て
県未記録のヒメウズラシギ *Calidris bairdii* が一羽観
察された。これは日本野鳥の会神奈川支部の木田博幸
氏の発見によるもので、筆者らも9月15日同じ場所で
生態を観察し、写真撮影も行ったので報告したい。

本種は北米極北部とシベリア北東部で繁殖し、チリ
ー、アルゼンチンへ渡り、4000mを越す高地で越冬す
る。渡りの際にも同程度の高所で観察される事がある。
本邦へは春・秋期に旅鳥として稀に渡来するが、
秋の記録が多い。

全長は約19cm。トウネンとハマシギの中間程の大き
さで、上面及び胸は褐色、下面は白く、背面の鱗状斑
が目立った。嘴及び脚は黒色。翼をたたんだ時翼端が
尾端を越えるのが特長である。トウネン程早い動きで
はなかったが、首を伸ばし直立した姿勢で活発に動き
回り、ゴカイ類を採餌していた。水中にはほとんど入
らず汀線に沿って移動していたが、一度数m程の距離
であったが水面を泳ぐ所を観察した。また10m程の汀
線を縄張りにはしているらしいトウネンに近づき過ぎて
追い回される、といった事も何回か観察された。飛翔
時、翼上面には顕著な模様は認められなかった。

警戒心は少なく、砂州に並んだ釣人の間へも平気で
入ってしまう。しかしほとんど静止する事なく動き回
るので撮影は困難であった。

(日本野鳥の会神奈川支部)



ヒメウズラシギ *Calidris bairdii* 相模川河口 ゴカイを捕えたところ。